



いのちの川

8号(2015年9月)

<http://nsskk.org/province/genpatsugroup/> (ホームページは日本聖公会管区事務所の諸委員会からリンク)

川内原子力発電所再稼働に対する 抗議声明

8月11日に行われた鹿児島県の川内^{せんだい}原発再稼働に対して、日本聖公会「正義と平和委員会」と原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」は共同で次のような抗議声明を発表しました。

内閣総理大臣 安倍晋三殿
九州電力株式会社 代表取締役社長
瓜生道明殿

去る2015年8月11日、九州電力は川内原発1号機の原子炉を再稼働させました。安倍政権と各電力会社ではこの審査手続きを「ひな形」にして、今後の再稼働手続きを加速させ、なし崩し的に原発依存に戻す意向が透けて見えます。避難計画にも不備が指摘されており、各種世論調査では再稼働反対が賛成を大幅に上回っています。また、火山噴火予知連絡会は大規模噴火の可能性に関する原子力規制委員会の審査内容に大きな疑問を投げかけています。

高レベル放射性廃棄物の最終処分場も確保できておらず、更に、万一の際の責任を誰が負うかも明確に定まっていない状態です。

福島第一原発事故によって、未だに将来を見通せないまま11万人に及ぶ人々が避難生活を強いられています。また、福島県内各地で実施されている除染は効果が低く、線量の高い場所が点在する中、多くの人々は不安に向き合いながら様々な葛藤を抱えて日常を送っています。特に、将来の世代の人々の健康が長

期に亘り蝕まれ続けていくのではないかと懸念されています。

また、日本政府は経済成長戦略から原発輸出を外さず、再稼働を容認することで原発の輸出を促進しようとしており、国内世論だけではなく国際社会からも大きな非難を浴びています。

人命より経済を優先させ、民意や疑問を置き去りにした見切り発車の再稼働は言語道断であり、東京電力福島第一原発の事故の被災者を初め、事故によって傷つけられた全てのいのちを冒瀆するものです。

政府が今取り組むべきエネルギー政策は、原発を主軸に戻すことではなく、再生可能エネルギーを主軸とした分散型エネルギー社会を築くことです。福島の事故での経験を、新しいエネルギー社会に向かう原動力にしていかななくてはなりません。

わたしたちはキリスト者として、神によって造られたいのちを脅かし、創造された自然を破壊し、与えられた平和な暮らしを奪う原子力発電所に反対し、再稼働のみならず、すべての原発の廃炉を強く求めます。

2015年8月14日

日本聖公会 正義と平和委員会

委員長 主教 渋澤一郎

日本聖公会 原発と放射能に関する特別問題プロジェクト

運営委員長代行 司祭 越山 健蔵

郵便振替口座 00120-0-78536

口座名 日本聖公会

「原発問題プロジェクトのため」と明記して下さい。

「センターしんち・がん小屋」って？

松本 晋

(原発と放射能に関する特別問題プロジェクト「支援センターしんち・がん小屋」スタッフ)

どこに？

福島県相馬郡新地町にあり、沿岸部の最北、宮城県亘理郡山元町との境にある自治体です。

なぜそこに？

東日本大震災で人口8,000人の町では沿岸部の4つの地区がほぼ全壊し119名の犠牲者がでました。最北の磯山地区には4世帯12名の信仰共同体である日本聖公会東北教区＜磯山聖ヨハネ教会＞がありましたが、大震災では全信徒が家を失っただけでなくかけがえのない3名の友も天に召されるという悲痛な出来事があったのです。国の内外から祈りと巡礼などのサポートが始動。常駐スタッフが派遣されています。



なにをしているの？

教会（信徒）の再建再生と一緒に、町（住民）の復興再生を願い、震災直後から現在にいたるまで、時々刻々と変化するニーズに応えながら水曜喫茶、指圧マッサージ、居宅訪問、健康体操などの＜ほっとコーナー＞をはじめ、証言傾聴、レクチャー、巡礼などを含む幅広い企画・参加・協働型の活動を行っています。





9月19日（土）

暑いぐらい晴天の秋空の下、ふじ幼稚園の運動会が行われました。子ども達は宝物ですね。



現状と課題は？

あれから4年半。町に8カ所あった仮設住宅が年内にも2カ所に集約されます。集団移転、公営災害（高齢者・復興）住宅などの整備・入居が進んでいる反面、残る2カ所の仮設住宅では主に「原発被災者」が生活再建の目途がつかずまだまだ避難生活継続を余儀なくされています。

仮設住宅での避難生活を終えた人も、まだの人も「心の復興」が直近の最も深刻な課題・ニーズになっています。この「復興」という2文字のはざまに乱立する孤立・格差・差別・分断・絶望・悲嘆・断念…という重苦しい別の2文字が生み出されています。

原発と放射線に関する特別問題プロジェクト

いっしょに歩こうプロジェクトの活動方針と 2012年日本聖公会総会決議「原発のない世界を求めて」に基づいて立てられた委員会です。

運営委員：司祭相澤牧人（長） 司祭岩城聡 司祭越山健蔵 司祭笹森田鶴 宮脇博子

事務局長：池住圭 福島県郡山市麓山 2-9-23 電話 0249-53-5987 fax050-3411-7085

【緊急のお知らせ】本プロジェクトの運営委員長であった野村潔司祭は、去る9月10日に神の御許に召されました。被災者のために命を削ってご奉仕くださった野村司祭の魂の平安をお祈りください。

今年7月の福島体験

今年の7月、福島に行った。毎年1~2度行かなければ、あそこで起こったことの実感が薄れてしまうからである。事態は何も改善されてはいない。

常磐道を北上した。やがて道沿いに、真っ黒の大きなビニール袋に詰められた除染土が目立ち始めた。庭の表土が集められてはいても、その庭の一角に積み上げられているなら、除染には一体どんな意味があるというのか。

その大きなビニール袋が、田畑に4~5段も重ねられ、延々と続いている場所もあった。除染土を処分する方法は、まだ誰にも分からない。

富岡町宝泉寺の墓地の一角にあったビニール袋の上部には、「平成27年6月17日除染、5,14マイクロシーベルト」と記入されていた。そこで持参した線量計で計ると、11,1マイクロシーベルトだった。2倍以上の開きがあるのは何故なのだろう。

いつものとおり、飯舘村の村役場にも行った。地上1メートルの線量が0,41マイクロシーベルトと示されていたが、地上で計ると、1,12マイクロシーベルトだった。この地域では、一部に居住許可が出たが、幼い子どもは地上で遊ぶわけで、子どもが日常的に浴びるのは、正式に発表される数値よりずっと高いと

みなければならない。

その飯舘村の村役場の線量掲示場所の下には、クローバーが群生していた。クローバーがあれば何となく四つ葉のクローバーを探すのが習性となっている私は、無意識の内にその四つ葉のクローバーを探した。何と、一メートル四方の範囲の中で、四つ葉・五つ葉・六つ葉のクローバーを17本も見つけた。たった5分ほどの間に。

郡山では、30歳代の二人の女性からお話を伺うことが出来た。その内容を分かち合うことのできることを得たので記入する。

Aさんは、お子様の健康のことを思うと、福島産の食物も水道水も一切口にできないと言う。放射能の問題は、日々の生活の中で最も重要な問題であるが、それについては、幼稚園仲間のお母さんたちと話し合えない。なぜなら、「そんなことを言っていたら生きて行けない」という立場に立とうとする人と、険悪なムードになることが分かっているからだという。

同様の意味で、同席していたB子さんも夫婦間に於いてすら放射能のことについては話し合えないと言う。妊娠・出産・子育てという人生にとって非常に大切な事柄が、夫婦間で話し合えない切なさ、私の心を締め付けた。

命を尊ぶというキリスト教の観点に従えば、原発はあまりにもその障害が大きい。

(東京教区司祭 神崎雄二)

しゃくをげ

(時局コラム)

「原発事故の収束」

毎主日の聖餐式代祷の中で、「原発事故の一刻も早い収束を願って」祈ります。福島県内地方紙に毎日報道される東京電力福島第一原発の状況は、一地下水が建屋に流れ込むのを氷の壁で抑制する「凍土遮水壁」の工事を続けた。汚染水を保管する大型タンクの増設を続けた…等々です。— 9/11 付では第一原発排水路から降雨の影響で放射性物質を含む汚染雨水が外洋へ流出。疑いを含め7回目。大雨に見舞われると排水路が一気に増水し水があふれ出るため、流出量や放射性物質濃度は測れないといいます。東電は「K排水路の出口を港湾内に移す工事を進め年度内に完了させる」と言っていますが…。汚染水は今もなお増え続けています。次々にトラブルが続き「本当に収束するのだろうか？」という思いさえします。

事故から4年半がたち、風評被害を払拭しようと県産の農産物が「安全・安心」だと宣伝される一方で、いまだに11万人もの人々が県内外で避難生活を強いられ、原発事故は収束していない現実があります。そのような中での8/11の川内原発再稼働は、福島県民殊に避難者の気持ちを逆なでするものでした。「なぜきょう11日(月命日)なんだ。」と。事故時の責任が不明確なままであり、事故原因も十分に究明されたとはいえず、事故の教訓も生かされていません。代祷の中から「原発事故の収束を願う祈り」がなくなることをお願いしながら、祈りつつ諦めず進みたいと思います。(M. N)